

医療法人財団 岩井医療財団
稻波脊椎・関節病院

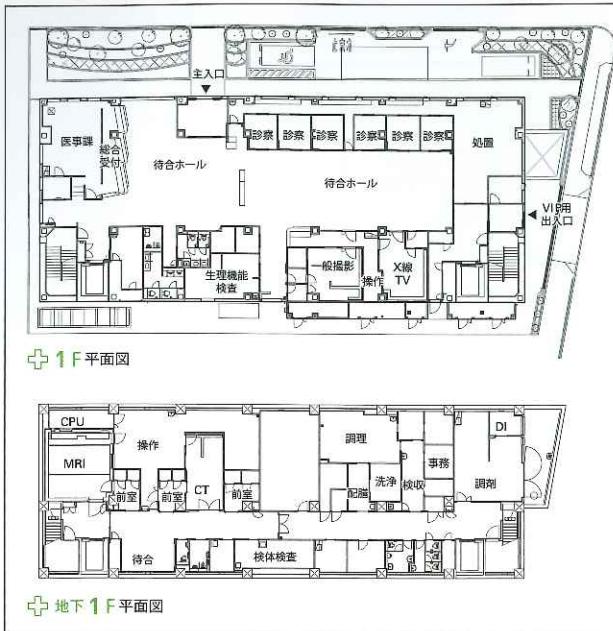
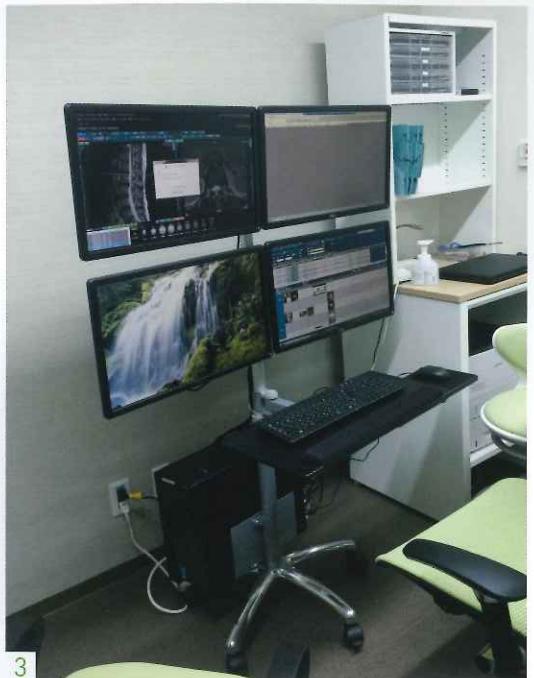


選者／考察者
岩堀 幸司（建築家）

「医療を通じて患者さんの幸せに資する」を病院運営の理念として掲げる岩井医療財団。同財団は稻波脊椎・関節病院を腰・膝の専門病院として、東京・品川区に開業した。その建屋は、これから都市部の病院づくりの模範となる設計思想を随所に内包している。

定評のある整形外科手術の進展を主目的に、医療法人内2施設目に当たる新病院を建設。先進医療と上質な療養空間の提供を目指す。





01. シンプルなモノトーン構成の病院外観
02. 手術室に大型モニタを設置
03. 4画面モニタを配した診察室
04. 明るく開放的な雰囲気の総合受付
05. 手術室増設スペースも兼ねるリハビリ室

写真：フォトワークス
YAMAGIWA 大川孔三（1階待合／163ページ）
村西一海（病院外観／163ページ）



撮影：稲波脊椎・関節病院 広報室

手術室設計とICTの工夫
治療目的のスペースにも、設計の工夫が凝らされている。その代表的事例が手術室である。

都市部の病院建築にみられることが多かった。結果、延べ面積4,000m²弱ながら、60床の病棟および脊椎・関節の先進医療提供に十分な病院機能を確保しているのである。これは、敷地面の課題の解決策として参考にすべき好例といえよう。



れているのである。

例えば2階にあるリハビリ室は、将来的に手術室を追加する必要に迫られた際、その增设スペースに充てることも考慮して手術室の横に設置。その他、地下1階の放射線検査ゾーンにおいては、大型機器の増設を想定し、隣接する倉庫に、そのスペースと機器の搬入ルートが確保されている。

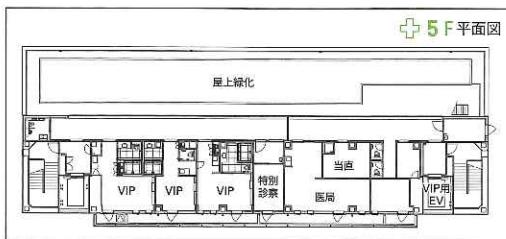
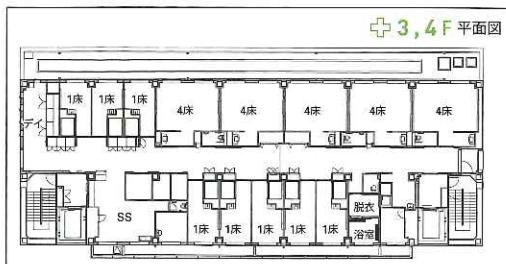
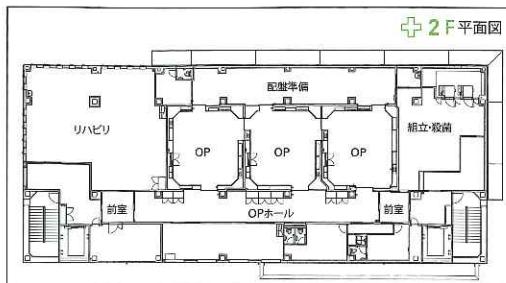
もう1つは、「管理部門設置の工夫」である。

同院の管理部門は、院内ではなく隣接するビル内にあり、同じビルの医療材料供給会社から適宜、供給を受けられる体制とした。これにより、病院建物は診療・入院・給食など患者に直接関わる部門だけで構成することができた。

結果、延べ面積4,000m²弱ながら、60床の病棟および脊椎・関節の先進医療提供に十分な病院機能を確保しているのである。これは、敷地面の課題の解決策として参考にすべき好例といえよう。

稻 波脊椎・関節病院は、1960年7月、岩井医療財團が運営する2番目の病院として、東京・品川区に開院した。

同財團は、90年に岩井整形外科内科病院と改称し、頸椎・胸椎・腰椎を中心とした手術の実績を積み重ねてきた。特に脊椎疾患の内視鏡下手術は、全国症例数の約10%に当たる年間1,300件以上の手術数を実施。近年は多数の患者が全国各地から来院し、待ち時間が長くなつたという事情もあり、2施設目を開院したのである。なお品川区での開院は、全国から訪れる患者の鉄路および航路の利便性に配慮した結果であるといふ。



6

同院は全国的にも脊椎・関節手術の症例数の多い病院ゆえ、安全かつ迅速な低侵襲手術が行える環境整備は不可欠であつた。そこで、ほぼ同じしらえの手術室の裏に、全ての手術室と接する形で配盤室を設置。手術室3室は連絡扉で連結され、スタッフが柔軟に移動可能となつてゐるのである。

また、設計上の話ではないが、ICTの積極導入と工夫も同院の特徴として挙げられる。中でも注目すべきは診察室だろう。室内には、見慣れた診察机は見当たらず、カルテ情報や検査画像などを表示する4画面モニタとその操作用キー

ホスピタリティ豊かな空間

建築計画に当たつての病院側の要望は、「ホスピタリティ豊かな空間」の構築であつたといふ。その観点から建物を評すると、例えば照明は全体的に抑

ボード、椅子が置かれているだけだ。まさに「次世代診察室」である。その他、手術進行状況をリアルタイムに配信する動画像システムなど、診療支援・教育目的のICTも積極的に導入。一方で、病院理念や先進医療技術を紹介するエントランス正面の大型モニタをはじめ、患者支援のICTも各所にみられる。

ボード、椅子が置かれているだけだ。まさに「次世代診察室」である。その他、手術進行状況をリアルタイムに配信する動画像システムなど、診療支援・教育目的のICTも積極的に導入。一方で、病院理念や先進医療技術を紹介するエントランス正面の大型モニタをはじめ、患者支援のICTも各所にみられる。



06. VIP 室にはキッチンなどの専用装備を設置
07. 床頭台の左右どちらにも配置可能なコンセント
08. スライドパネル付きメディカルコンソール
09. シックな上質感を放つベッド周辺家具

医療法人財団 岩井医療財団 稲波脊椎・関節病院

所在地 ▶ 東京都品川区東品川3-17-5
病床数 ▶ 60床
【建築概要】
工期 ▶ 2014年3月～2015年5月
延べ面積 ▶ 3,983.96m²
構造階数 ▶ S造、地下1階、地上5階
設計監理 ▶ 内藤建築事務所
施工 ▶ 北野建設
電気設備工事 ▶ 弘電社
空調衛生工事 ▶ 大成設備
手術室工事 ▶ センタルユニ

え氣味であり、それゆえ明るくあるべき部分の明るさが際立つ。天然リノリュームの床やコルク練り込みシートの腰壁等の素材も、十分に吟味されている。これらの配慮により、先進医療のクールなイメージと相対する温かく優しい印象の治療・療養環境を見事に実現しており、高く評したい。

*
スポート選手などがプライバシーを担保しながら治療に専念できるVIPエリアの設置など、都市部ゆえの二ニーズ対応も徹底する稲波脊椎・関節病院。全患者の幸せを真摯に願う職員共通の思いがそこにある。